

第5回 栗原市総合計画審議会 会議録

日 時 令和3年8月26日(木) 午後1時30分～午後4時00分

場 所 栗原市消防庁舎 3階 大会議室

出席者 委員15名

鈴木康夫会長、千葉節朗副会長、中田千彦委員、佐藤光樹委員、阿部智恵委員、佐藤則明委員、菅原博之委員、松平きらら委員、渡邊登委員、佐藤浩喜委員、菅原文彦委員、星光委員、齋藤理恵委員、菅原幸治委員、三浦和栄委員

(事務局)

三塚企画部長、鈴木企画部次長、佐藤企画課長、菅原企画課長補佐、菅原企画政策係長、眞山主査、佐藤主査

1 開会

2 挨拶

○栗原市総合計画審議会 鈴木康夫会長

コロナの感染が拡大しているが、そうした中で、総合計画後期基本計画は、栗原市が目指す5年後の姿を定める極めて重要な計画である。環境の変化が予測できないところがあるが、そこを視野に入れながらまとめていく必要がある。

前回の審議会では、市民アンケートや若者ワークショップの結果について皆さんから御意見を伺ったが、その後市役所内で協議し、本日の資料をまとめている。限りある時間の中でしっかりチェックして計画を作り上げていきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

3 案件

(1) 第2次栗原市総合計画後期基本計画(案)について

【今回の会議の位置付け及び今後のスケジュールについて事務局説明】

(会長)

何か御質問はないか。

(意見・質問なし)

【資料 1-1 『計画策定の指針』及び『序論』について事務局説明】

(委員)

今回の資料が事前送付されて、一市民として、栗原市がどう考えているのかを念頭に読ませていただいた。

2ページの「(1) 計画策定の意義」では、伝えたいことがたくさんあり、計画策定の熱意が凝縮されているように思われるが、2段目の段落は、一つの文章が長すぎて、どのように意味を理解すればいいのか戸惑った。全体を通じて、文章が長くて分かりにくいところは、3つの文ぐらいに分けて書いた方がいいと感じた。

また、この計画は、将来的に公になるため、使用する語句の吟味が必要だと感じた。前回の文章をそのまま使う場合でも、新型コロナウイルス感染症やSDGsの観点から、引っかかる言葉がところどころ見受けられる。

例えば、3ページの一番下の項目の中の「農村から都市への人口流出が続いている状況の中、・・・」の「農村から都市への人口流出」という表現は一昔前の印象を受ける。「地方から都市への人口流出」の方が適切だと思う。

また、同じく3ページの一番上の項目の中にある「平成20年岩手・宮城内陸地震」に西暦、「東日本大震災」にも年号を入れた方がいいと思う。

11ページの「①将来像」の2行目「繁栄をもたらせてきました」は「もたらしてきました」の方がいいと思う。また、7行目の「情報を携えた」の意味が伝わらない。

12ページの1行目「自然を楽しみながら」は「親しみながら」の方がいい。また、その後の文について、「ふるさとに対する誇り」と「感性」は育んでいくものだが、「知識」は身につけていくものであり、文章に違和感がある。

12ページの下から2行目「市民との情報共有を高め」という表現は「情報を共有し」にした方がよい。

(事務局)

長文で分かりづらいところは、分かりやすい表現に修正するよう検討したい。

11ページと12ページの基本構想は10年間の計画であるため、今回は見直しの対象にはしていなかった部分ではあるが、いただいた御意見を踏まえて、どのような対応が可能か検討したい。

(会長)

修正できる部分はきちんと見直ししていただきたい。

(委員)

8ページの「⑤人口の将来予測」について、前期計画では、平成38年の社人研推計人口は57,900人だが、いろいろ努力して計画人口を59,100人とすることとしており、1,200人の増加を目指すこととしていた。一方、後期計画では、令和8年の社人研推計人口では57,500人だが、努力して59,070人にする事としており、増加させる人口が1,570人となる。増加人口を1,200人から1,500人にする根拠を教えてください。

(事務局)

計画人口の推計にあたっては、合計特殊出生率を2030年に1.8、2040年に2.07にすることを目標としている。現状の合計特殊出生率は、平成29年時点で、国が1.43、宮城県が1.35、栗原市がそれを上回る1.48となっている。なお、国は、市の後期計画と同様に2030年に1.8、2040年に2.07にすることを目標としている。

そうした状況を踏まえ、国との整合性をとって目標設定すべき、との考え方で今回の推計を行っている。

(委員)

合計特殊出生率を1.48から2.07にするのはかなりハードルが高い。計画であるため、高い目標でいいとは思いますが、こういった計画案はやればやるほど無理が生じてくるものがある。目標として掲げるのはいいと思うが、現実的にはどうなのか、という部分を計画に反映させた方が市民の皆さんには分かりやすいと思う。

(事務局)

今回の推計の根拠として、前期計画における令和2年(平成32年)の推計人口は64,608人だったが、最新の国勢調査の速報値では、令和2年の人口が64,686人となり、前期計画の推計を80人弱上回っている。そうした状況も踏まえて今回の推計としている。

【資料2 [将来像I] について事務局説明】

(会長)

何か御質問はないか。

(委員)

3 ページ I-2-③の成果指標「無形民俗文化財保存団体への次世代の新規加入会員数」の「次世代」とは具体的にどの年代を指すのか。

また、4 ページ I-3-①の「現状と課題」で、「火山災害警戒地域」の指定について、避難促進施設の指定と施設管理者による避難確保計画の策定について書かれているが、施設以外の一般市民の避難に関することはどこに書かれているのか。一般市民の居住区域には被害が及ばないということなのか。

(事務局)

I-2-③の成果指標「無形民俗文化財保存団体への次世代の新規加入会員数」については、各団体の年齢構成が非常に高くなっている現状を踏まえ、ある一定の年齢で区切ることが難しく、また、団体によって活動内容が異なり、現役世代と若手世代の年齢の区分が様々であることから、庁内で検討した結果、このような表現としたもの。

I-3-①について、栗駒山の火口から一定距離の範囲内で噴石等の被害が想定される。その範囲内には住宅は入っていないが、市や県の施設があれば、その施設の管理者による避難確保計画の策定が必要となる。

(委員)

水害などの災害が多くなっており、市民の防災への関心が高くなっていると思う。

I-3-①に「民間木造住宅の耐震診断と耐震改修工事」とあるが、市内には昭和56年以前の建築物が非常に多い。予測不可能な地震が各地で立て続けに起こっており、市民の心配も多いと思うが、今後、どのような取り組みを進めていくのか。

(事務局)

市では、民間木造住宅の耐震診断・耐震改修工事をする際の助成や、家具の転倒防止器具の取付事業を行っている。

【資料2 「将来像Ⅱ」について事務局説明】

(会長)

何か御質問はないか。

(委員)

Ⅱ－１－①の「現状と課題」に「未婚化や晩婚化が進展しているため・・・」とあるが、「進展」という表現だと、進行・発展して良くなっていくイメージを受けるため、ここは「進行」の方がいいのではないか。

Ⅱ－１－②の「現状と課題」の「核家族化の進展」という部分も同様で、「核家族化の進行」や「核家族世帯の増加」の方がいいと思う。

Ⅱ－２－①の「具体的な取り組み」の「国際理解教育の推進」の中に「留学生との交流などを通じ」という記述があるが、現状として、留学生との交流はなかなか難しいのではないか。ここ数年、留学生との交流をやってきたのか。ここは「留学生」ではなく「ALT」ではダメなのか。

Ⅱ－２－②の「現状と課題」に「将来の栗原市を担う人材を確保するため・・・の教育が求められています。」とあるが、栗原市の教育は、将来を担う人材を確保するために行うのか。「確保」という言葉が引っかかるため、せめて「人材を育てるため」などの表現の方がいいのではないか。

Ⅱ－３－①の成果指標「ウェブサイトによる情報発信の平均更新回数」について、幼稚園も小学校も中学校もかなり更新されている印象を受けるが、先生方はいじめ問題や不登校、新型コロナウイルスへの対応など、忙しい中を縫って現状の回数でウェブサイトを更新しているのに、後期計画ではさらにもっと上をいく目標値を設定している。それぞれ現状値に少しずつ上乗せして目標値として設定しているのはどのような意図があるのか。更新回数を、月1回(年12回)程度に抑えないと先生方が大変だと思う。

(事務局)

Ⅱ－１－①・②、Ⅱ－２－②などの「進展」や「確保」といった表現は再検討させていただきたい。

Ⅱ－３－①のウェブサイトによる情報発信については、既に行っている定期的な情報発信に加えて、中体連や新人戦、文化祭などのイベント時の情報発信を追加すれば、これぐらいの回数は十分達成できるだろうという状況を踏まえて目標値として設定している。

Ⅱ－２－①の留学生との交流については、東北大学の留学生との交流を行ってきたが、記述内容については再度検討する。

(委員)

Ⅱ－３－②の成果指標「不登校の出現率」について、ここの数字だけ小数第2位まで表記している。おそらく実数から算出した数字だと思うが、目標値まで小数第2位までとして、この数字を設定した根拠を教えてください。

(事務局)

元の数字が小さいために、小数第1位までの表記だと変動があっても見えづらくなってしまう。

(委員)

あくまで目標値であるため、「3.6%」でも「4%」でもいいのではないか。実数が小さいからというの理解できるが、普通は桁数を揃えるべきであるのに、ここだけ揃っていないのはなぜか。「いじめを解決した割合」の目標値は「100%」であるのに、この目標値だと不登校は4人以下であれば許容範囲に見えてしまうが、目標値の根拠を教えてください。

(事務局)

桁数が揃っていない指摘については、表記の仕方を再検討させていただきたい。

【資料2 将来像Ⅲ】について事務局説明

(会長)

何か御質問はないか。

(意見・質問なし)

【資料2 将来像Ⅳ】について事務局説明

(会長)

何か御質問はないか。

(委員)

将来像Ⅳになってから成果指標の目標値が5年スパンになっている。確かに経済などの分野はある程度長いスパンで考えるのが妥当かと思うが、現状値は年単位で表記している。

例えば、Ⅳ-1-①「新規就農者数」は現状値「9人/年」に対して、目標値を「30人/5年」としているのは、目標値を「6人/年」とすると現状値を下回ってしまうため、「30人/5年」という見せ方をしているように感じられる。現状値は年単位、目標値は5年単位とし、単位を変えているところには、何かをごまかそうとしているような意図があると思ってしまう。単位は「年」で統一してほしい。

また、Ⅳ－３－②「栗駒山麓ジオパークビジターセンター入館者数」の現状値と目標値が漢字表記になっているため、表現方法を統一してほしい。

(事務局)

Ⅳ－３－②の成果指標の数字の表記は、統一が必要と思われるため修正したい。

また、現状値と目標値の年の単位が異なる点については、内容によって各年度の実績にバラつきが生じるものや、観光関連などのように新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和２年度の実績をそのまま基準として採用できないものがあり、現状値を過去数年の平均値から算出したものもあるため、もっと分かりやすい表記となるように工夫したい。

(委員)

現状値を単純に５倍した数字を目標値としているものがあるが（Ⅳ－２－②「創業・起業件数」やⅣ－２－③「空き店舗を活用した新規出店数」など）、なぜ将来像のⅣだけ目標値の単位を変えているのか。目標値を高く設定できないところを、年単位では横ばいだが、５年単位にして大きく見せようとしている、と受け取ってしまう。

現状値よりも５年後の数値が減るものは減るもので仕方がないと思うので、見せ方でごまかさないでしっかり示すべきだと思う。

(事務局)

見る人に誤解を与えないように表記を検討したい。

(委員)

成果指標の項目ごとに現状値と目標値の桁数を合わせていただければある程度見やすくなると思う。

例えばⅡ－３－②「いじめを解決した割合」の現状値について、小学校は「７５．０％」から「７５％」、中学校は「８４．６％」から「８５％」にして現状値と目標値（１００％）の桁数を統一した方がいいのではないか。

「不登校の出現率」については、目標値を「０％」にできればいいのだが、不登校の原因が非常に多岐にわたるためそう簡単にいくものではない。いじめがなくなれば不登校がなくなるかと言うとそうでもない。ネグレクトや成績、進路など、いろいろな要因があって不登校になっている。目標値は、現状値に０．９を乗じて算出し、１０％減を目標としていると思われるが、これを小数第１位までの表記とすると、現状値が「０．４％」、目標値が「０．３％」にならざるを得ず、そうすると２５％減となり、現実的にかなり難しくなるため、ここ

は現状値と目標値を小数第2位までの表記で統一すればいいと思う。

そのように考えると、Ⅲ-2-②「健康寿命」は、現状値（男性）が「79.72歳」であれば目標値は「81.00歳」に、また、Ⅲ-2-③「認知症サポーターがいる行政区の割合」は、例えば現状値を「81%」（現状80.78%）にするべき。

尺度が違うため、全体を統一することは難しいが、せめて目標値と現状値の桁数だけでも合わせれば、ほとんどのものが理解しやすくなると思う。

（事務局）

いただいた意見を踏まえて修正等をさせていただきたい。

【資料2 「将来像V」について事務局説明】

（会長）

何か御質問はないか。

（委員）

V-2-①の成果指標「コミュニティ施設の整備件数」について、前期計画では5年間で20件を目標としており、後期計画においても、年間のペースは分からないが5年間で20件を目標とし、前期・後期を通じて10年間で40件を整備していくという意思表示だと思うが、そういった理解で良いか。

また、V-2-②「公益活動団体、企業等が連携して行う事業の実施件数」は、現状値が1件だが、目標値は「3件/5年」としており、5年かけて3件にしていくという見え方ができるが、その理解で正しいのか。

（事務局）

V-2-①「コミュニティ施設の整備件数」は、直近の現状値が「4件/年」であることを踏まえて後期計画の5年間で20件の整備を目指すこととしたものの。

V-2-②「公益活動団体、企業等が連携して行う事業の実施件数」は、直近の現状値が「1件/年」であることを踏まえて後期基本計画の5年間で3件の実施を目指すこととしたものの。

（委員）

年単位で実績を積んで毎年実績が確認できるものもあれば、前期・後期計画期間のように少し長いスパンで考えて当初の目標達成を目指していくものもある。「コミュニティ施設の整備」や、「公益活動団体、企業等が連携して行う事

業の実施件数」は、社会情勢や経済的な状況などにより取り組みに変化が起こり得ると思う。よって、一律に「年単位」という示し方をした場合、読み方を誤ると、数値目標を達成できなかったときに「責任追及」といったような話になってしまい、あまり建設的な意見が出されなくなってしまう。計画として資料を作る際には、読み手に対して趣旨が伝わるように表現することが必要だと思う。

【資料2 [重点①放射能対策プロジェクト] について事務局説明】

(会長)

何か御質問はないか。

(意見・質問等なし)

【資料2 [重点②地方創生の取り組み] について事務局説明】

(会長)

何か御質問はないか。

(意見・質問等なし)

4 その他

(事務局)

今回の会議は10月に開催を予定している。9月中旬以降に委員の皆様都合を確認させていただき、開催日を決定する。今回は、パブリックコメントに対する意見等の調整や、本日の審議会で委員の皆様からいただいた御意見を踏まえて修正した後期基本計画(案)について諮問し、答申をいただく予定としている。

5 閉会(午後4時00分)

(副会長)

会長が冒頭で申し上げたとおり本日は非常に重要な会議であった。

新市長の意向を踏まえて見直し箇所が多くなっていると感じた。

成果指標の数字の表現方法についてももう少し考えていただいた方がいいと思う。

10月の第6回審議会を経て、12月議会での最終決定に向けて引き続きよろしくお願ひしたい。